

「第3回なすかの森ワンダーキッズキャンプ
～チャレンジ！避難所生活～」報告
令和3年3月13日（土）～14日（日）1泊2日



【目的・趣旨】

平成25年に国土強靱化基本法が制定され、各地域において防災・減災の包括的推進が求められている中で、児童・生徒にも心構えだけでなく、基本的な知識や技術の育成が必要となっている。そのような実態を踏まえ、当施設では小中学生が仲間とともに協働宿泊体験を通して防災スキル等を身につけながら、助け合うことの大切さに気づき、普段の生活にも活かすことができる考え方や姿勢を養うことを目的とし、また、今日的な課題への意識付けを行いながら、利用者が「普段の生活に活かせる」スキルを身に付けるプログラムを提供する。

第3回は、「チャレンジ！避難所生活」をテーマに1泊2日で、段ボール基地づくりや震災のお話を聞くなど、防災意識を高めるきっかけになることを目的としてプログラムを企画した。

【連携先】

・特になし

【募集対象／実績】

《募集対象》小学3年生～中学3年生 15名程度

《実績》8名（小3／1名、小4／2名、小5／2名、小6／2名、中1／1名）

【プログラム概要】

【1日目】令和3年3月13日（土） 天候：雨

10：00 出合いのつどい [エコルーム1]

10：30 段ボール基地づくり① [エコルーム2]

自分たちで基地づくりをするうえでのルールを決め、生活スペースを製作した。

12：00 昼食 [エコルーム2]

支給品のおにぎり弁当のほか、ガスバーナーを使用し、緑茶を沸かした。

13：30 震災のお話 [エコルーム2]

東日本大震災の際に、当施設で避難所を運営していた職員の話を聞いた。

14：30 段ボール基地づくり② [エコルーム2]

午前引き続き、生活スペースを製作し、完成させた。

17：00 夕食 [レストラン]

18：30 基地紹介 [エコルーム2]

自分たちで製作した生活スペースを「プライバシーは守られているか」「どんな工夫があったか」などの観点で紹介した。

20：00 入浴 [浴場]

21：00 就寝 [エコルーム2]

【2日目】令和3年3月14日（日） 天候：曇のち雨

06：30 起床

07：00 朝食づくり [エコルーム2]

前日も使用したガスバーナーで、ホットサンドづくりを行った。

08：30 基地片付け [エコルーム2]

10：00 リフレッシュタイム [プレイホール]

ドッジボールなどの運動を行った。

12:00 昼食 [レストラン]

13:00 段ボール写真立てづくり [エコルーム2]

自分たちが生活スペースで使用していた段ボールを再利用し、創作活動を行った。

14:00 別れのつどい [エコルーム2]

15:00 解散 [エコルーム2]

【成果】

- ・ 段ボール基地づくりでは、みんなで話し合っ て作り方を決めることができたため、より意欲を持って取り組むことが出来た。
- ・ 基地づくりの時間を長めに確保していたことで、生活スペースに棚を作るなど、各自の創意工夫が見られた。
- ・ 避難所生活で困ったことをランキング形式で発表することにより、楽しみながら避難所生活について学ぶことが出来た。
- ・ 震災当時、避難所だった那須甲子の状況をパワーポイントを用いて伝えることにより、当時の大変さやエピソードを分かりやすく伝えることが出来た。
- ・ 震災のお話では、エピソードトークだけでなく、普段の生活の中でも生きる話（人との繋がり、日頃の備えなど）を取り入れることにより減災の意識も高めることが出来た。
- ・ 基地紹介では、自分以外の参加者がどのような防災的視点を持っているのか知ることが出来た。
- ・ 朝食づくりでは、慣れた手つきでバーナーとホットサンドメーカーを使用し、調理する姿が見られた。（比較的リピーターが多かったため、技術が身についてきたように感じる。）
- ・ 段ボール写真立てづくりでは、自分たちが生活スペースで使用していた段ボールを再利用した。出来るだけ無駄を無くす「エコ」についても考えることが出来た。

《参加者の声》

「協力して基地を作ったのが楽しかった。」「震災のお話や、みんなの基地の作り方を 見てどうすればいいか考えていきたいです。」「段ボール写真立てを作るのが楽しかった。」「避難所での生活が少し大変だったので、もしものときを意識して生活していきたい。」「普段から家族と防災について話し合っていきたい。」「日常の中で地震が起こった時にどうすればいいのかということ を頭に入れておきながら生活したい。」等

【課題と方策】

- ・ 「自分のことは自分でやる」という形のプログラムが多かったため、目的にある助け合いや、協働という場面が少なかった。そのため、プログラムの中で協力する要素を意図的に取り入れる必要があった。
- ・ 段ボール基地づくりでは大量の段ボールを使用するため、準備と片付けが大変だった。状況に応じて使用する段ボールの量を制限する必要がある。

【作成】 事業推進係員：藤本 樹

